

日時：2019年（令和元年）8月13日（火）

午前9時30分～10時30分

場所：藤沢市役所3-3会議室

出席者

評価委員会委員長	藤井 佳世	（横浜国立大学教育学部 准教授）
評価委員会副委員長	渡邊 美子	（学校・家庭・地域連携推進会議会長）
評価委員会委員	渡邊 泰典	（多摩大学グローバルスタディーズ学部 教授）
評価委員会委員	伴 瑞穂	（藤沢の子どもたちのためにつながる会）
教育委員会	平岩 多恵子	（教育長）
	大津 邦彦	（教育長職務代理者）
	中林 奈美子	（教育委員）
	木原 明子	（教育委員）
教育委員会事務局	須田 泉	（教育次長）
	松原 保	（教育部長）
	佐藤 繁	（教育部参事兼教育総務課長）
	窪島 義浩	（教育指導課長）
	野口 美江子	（学務保健課課長補佐）
	新井 弘行	（学校給食課長）
	山口 秀俊	（学校施設課長）
	須藤 和久	（教育総務課主幹）
	繁里 洋子	（教育総務課指導主事）
	田中 富子	（教育総務課主査）
生涯学習部	神原 勇人	（生涯学習部長）
	齋藤 拓也	（生涯学習部参事兼生涯学習総務課長）
	峯 千鶴	（生涯学習総務課主幹）
	谷本 博史	（生涯学習総務課課長補佐）
	田代 俊之	（郷土歴史課課長補佐）
	横田 隆一	（文化芸術課長）
	西台 篤史	（スポーツ推進課長）
	市川 雅之	（総合市民図書館長）
	赤坂 政徳	（東京リビ°ック・パ°ランビ°ック開催準備室長）

事務局（繁里） みなさん、おはようございます。本日は、お忙しいなか、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。

この教育振興基本計画 評価委員会は、「評価委員会設置要綱 第5条 第3項」の規定により、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができないとされており、本日は、委員数4名全員出席ですので、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、ここからは、藤井委員長に進行をお願い致します。

藤井委員長

この評価委員会ですが、「藤沢市情報公開条例第 30 条」の規定により、審議会等は公開が原則となっております。したがって、この評価委員会につきましては、原則として公開とします。ただし、会議を公開することにより、当該会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合がありますら、その都度、皆様にお諮りして決めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

藤井委員長

それでは、そのような取扱いとさせていただきます。

次に、「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱第 6 条第 1 項」の規定により、会議資料につきましては、原則として、傍聴者の閲覧に供することとされておりますが、傍聴者に対して会議資料を配付することについて、ご異議はございませんか。

(「異議なし」の声)

藤井委員長

ご異議がありませんので、そのような取扱いとさせていただきます。

また、会議録につきましては、事務局で作成し、公開してまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

なお、傍聴者数に関しましては、「藤沢市教育振興基本計画 評価委員会 傍聴規程 第 3 条」において「会議室の広さに応じ、会議の運営に支障を生じない範囲で、会議の都度、委員長が決める」とありますので、本日の会議では 10 名とさせていただきますがご異議はございませんか。

(「異議なし」の声)

藤井委員長

傍聴希望者はいますか。

事務局

本日傍聴者はいません。

藤井委員長

それでは、ただ今から、第 3 回 藤沢市教育振興基本計画 評価委員会を開会致します。それでは、お手元の次第に沿って、議事を進めて参りたいと思います。

まず議題(1)「2018 年度 教育委員会の点検・評価対象事業についての追加質問及び講評」から始めます。事業コードの順に 1 事業ずつ、追加質問及び講評という形で進めていきたいと思っております。

講評する際ですが、事業の内容が目的を実現するために適切か、事業の成果・効果が適切か、課題・問題点の捉え方は適切か、この事業は「施策の柱」や「基本方針」に対し、効果があったか、といった観点からのご意見を申し上げます。

では、事業コード 122 教育文化センター研究研修事業について追加の質問はありませんか。(質疑なし)

続いて、講評に移りたいと思っております。この事業に対するご意見を申し上げます。

渡邊(泰)委員

事業コード 112 教育文化センター研究研修事業について講評します。

研究部会や研修会の開催、教育情報の提供などを実施し、「熱意と指導力のある教員の育成」という施策の柱に対して、事業が寄与していると考えられます。現場で活躍する若手教員が増えている中で、研究員の指導力向上や教育情報の提供という形での現場へのフィードバックは、今後も重要な取組であると思っております。教育文化センターでの研修講座は、基本的に採用された教員の資質向上を主目的

とするものと理解しておりますが、今後採用につながる可能性のある臨時的任用職員や非常勤職員の方々が参加しやすい企画を今後もお願いいたします。

伴委員

同じく、事業コード 112 教育文化センター研究研修事業について講評します。

研究部会を設置し、日々の業務が忙しい中、年間を通じて研究員の指導力向上に努めていることは、教育の質を上げるために大切なことであると思います。より今日的な教育課題や現場のニーズに対応した実践型の研究研修が行われ、教員自身が学びを深めていくことにより、藤沢の子どもたちの多様な学びの機会が増えることを期待しています。また、実践だけでなく、教育に関する倫理的な概念や抽象的な概念に立ち返ることも重要であると思います。教科、課題テーマごとに教員同士がつながり、実践現場とは違う学びの機会は、「熱意と指導力のある教員の養成」という施策の柱に対して事業が寄与していると思います。また、教員のキャリアアップや、地域、保護者と学び合う研修も子どもたちの成長にとってとても重要だと感じます。「熱意と指導力のある教員の養成」という施策の柱は勿論のこと、「共に学び、多くの人とかかわり合いながら自立する子どもを育成します」という基本方針に対しても大切な事業だと思うので、これからも継続して事業の充実を図っていただきたいと思います。

渡邊（美）委員 事業コード 112 教育文化センター研究研修事業についてお話いたします。

藤沢市教職員人材育成基本方針に基づき、教育関係職員に対して様々な分野にわたり研修講座及び授業研究セミナー等を企画実施するなど、「熱意と指導力のある教員の養成」という施策の柱に対して本事業が寄与していると思います。指導要領が改定され、教職員の多忙化が問題となっている中、今日的課題や現場のニーズに即した内容を常に検討しながら、これからも事業を継続し、さらに教員を目指す人材も育てることも検討して欲しいと思います。

藤井委員長

同じく、事業コード 112 教育文化センター研究研修事業について講評します。

本事業は、施策の柱である「熱意と指導力のある教員の養成」を進めていると思います。校長会からの推薦により、10年目までの若手教員を中心にセンター研究員を構成し、それぞれの部会で年10回前後の研究会を開催していることは、研究員の指導力やキャリア、教育活動に重要な意味をもたらしていると思います。また、研修講座の開催は、藤沢市の教員の指導力向上にとって重要な取組だと思います。報告からは、教育文化センターとして、今日的課題に対応する教育を考えることと採用後の教員研修という点に特徴があるということも分かりました。今後は、教育活動の充実という観点から、授業力に限定されない教育に関する今日的課題についても、研修や部会設定を行うなど、広い意味での教員の指導力の向上に取り組んでほしいと思います。また、研究成果の報告についても、広く教職員からのリアクションを拾うことや独自の教材開発、継続的な研究なども重要だと思いますので、今後も積極的に取り組んでほしいと思います。

藤井委員長

続いて、事業コード 312 新入生サポート事業について、ご質問がなければ、講評をお願いいたします。（質疑なし）

渡邊（泰）委員 事業コード 312 新入生サポート事業について講評します。サポート講師がチームティーチングだけでなく、個別の児童の対応を行うことにより、「学びを支え質の高い教育環境の整備」という施策の柱に貢献しているものと考えられます。現状では、優先度の高い授業のサポートが中心とのことですので、各学級のサポー

ト時間を少しずつでも増やしていけるよう、他の事業と連携するなどして、配置数の増加を目指していただきたいと思います。

伴委員

事業コード 312 新入生サポート事業について講評します。小学校1年生までの学びの機会は家庭によって様々であり、学校生活への適応についてできるだけスムーズに行える環境をつくるのが、今後の学びの機会の可能性を広げることにつながっていると思います。学校、学年、地域の特徴を捉えながら、これからもある程度、柔軟に対応のできる方法でサポートを行ってくださることを期待しています。「学びを支え質の高い教育環境の整備」という施策の柱にあるように、授業でのつまづきに対する気付きや、チームティーチングによるきめ細やかな指導を行えるなど、この事業は大変意義のあることだと思います。また、家族にとっても学校生活を子どもたちがスムーズに送れるということは、安心感につながると思います。

「学びを支え質の高い教育環境の整備」という施策の柱は勿論のこと、「学校教育を充実させる人的、物的条件の整備を図ります」という基本方針に対しても大切な事業だと思うので、これからも継続して事業の充実を図ってほしいと思います。

渡邊（美）委員 同じく、事業コード 312 新入生サポート事業について講評します。様々な環境で育ってきた新入生をサポートし、それを担う教員のサポートをする本事業は「学校教育を充実させる人的、物的条件整備を図ります」の基本方針と施策の柱「学びを支え質の高い教育環境の整備」に寄与していると思います。課題にあるように、支援を必要とする場合がある児童数が増加傾向にあり、経験年数の浅い若手教員が1年生の学級担任となるケースが多いというならば、既定の時間でカバーしきれない支援が必要となる場面もあると思います。余裕のある配置を検討するなどして、これからもなお一層充実した体制作りと事業の展開継続を期待しています。

藤井委員長

本事業は、施策の柱である「学びを支え質の高い教育環境の整備」を進めていると思います。報告から、サポート講師の役割として、小学1年生の子どもたちが学校に慣れていくことを手助けすることの必要性と、経験年数の浅い教員のサポートが必要であることが分かりました。給食のお手伝いや集団で学ぶことのサポートは、小学校入学時の子どもたちの戸惑いや不安に対応する重要な役割を担っていると思いました。学校への適応という視点からみれば、中学1年生よりも小学1年生への十分なサポートが本事業の内容であることも理解できました。市費講師の派遣など、1年生の学級担任との連携はますます必要になると思います。そのため、講師の研修方法やサポート講師の担当時間数の検討も必要になるのではないかと思います。新入生サポート事業はとても大切だと思いますので、継続して進めてほしいと思います。その中で、今後、中学1年生への学習面でのサポートとして、特定の教科ではなくて学習の仕方についても、教育効果の向上という視点から検討してほしいと思います。

藤井委員長

続いて、事業コード 426 子ども読書活動推進事業について、ご質問がなければ講評をお願いいたします。

渡邊（泰）委員 事業コード 426 子ども読書活動推進事業について講評いたします。ブックスタート事業や団体貸出など、子どもたちと読書の関わりを増やす取組を多数実施し

ており、「多様な学びを支援する図書館活動の推進」という施策の柱に貢献するものと考えられます。学校に対する団体貸出は件数が減少しているようですが、学校図書館の資料の充実度との関係を聞き取り調査などで確認していただきたいと思います。また、児童生徒の図書館への興味関心を増進するために、子どもたちを巻き込んだかたちで図書館ボランティアを充実させることができればよいのではないかと考えます。

伴委員

ブックスタート事業では、健診という機会を捉え、幼児と保護者に絵本の読み聞かせを行うことはとても素晴らしいと思います。親子のふれあいの大切なツールとして絵本に触れることは、視覚的な刺激、聴覚的な刺激と共に親子が向き合う大切な時間や空間を作っていると思います。「多様な学びを支援する図書館活動の推進」という施策の柱は、豊かな感性を持った子どもたちを育むために重要であり、この事業は大きく寄与していると考えます。また、リサイクルブックフェアや、多くの研修会、講座の開催により、基本方針である「多様な学びのできる生涯学習社会を目指します」に対しても有用な効果をもたらせていると思います。「多様な学びを支援する図書館活動の推進」という施策の柱は勿論のこと、「多様な学びのできる生涯学習社会を目指します」という基本方針に対しても大切な事業だと思うので、これからも継続して事業の充実を図ってみたいと思います。

渡邊（美）委員

子どもの読書環境を整備し、読書機会の充実を図るための多岐にわたる事業展開は施策の柱「多様な学びを支援する図書館活動の推進」に沿ったものと思います。図書館や本への親しみを作る事業とともに、成長してもなお継続して本と親しむ機会を充実させる取組として、学校との協力体制を密にし、子どもたちが本離れすることのない環境づくりを提供していただきたいと思います。また、ブックスタート事業及び母子健康手帳交付時以降の一連の啓発活動などは保護者世代への読書機会の充実やボランティア活動のきっかけとなるなど、基本方針「多様な学びのできる生涯学習社会を目指します」にも更に寄与していると思います。

藤井委員長

では、事業コード 426 子ども読書活動推進事業について講評いたします。

本事業は、施策の柱である「多様な学びを支援する図書館活動の推進」を進めていると思います。ブックスタート事業やボランティア交流会や団体貸出など、子どもの生活に図書をもたらし、子どもの読書環境の整備と読書機会の充実に貢献していると思います。報告から、各学校の学級文庫にも担当教員が相談したい場合は、相談体制があることも分かりました。充実した体制をとっていると思いますので、一人ひとりの先生にその体制を周知徹底されるとより子どもの読書環境がよくなるのではないかと思います。また、ボランティアについては、50代以上の方が多いとのことでしたので、多様な年代の方による多様な関わり方も今後、課題になるように思いました。さらに、中学生や高校生によるボランティアもあるとのことでしたが、これからの図書館を、考える人を育てる視点から、子どもの読書活動を取り入れた企画や活動を行うなど、本が好きな子どもが積極的に参加できるような取組もあるといいように思いました。子どもの読書活動の充実は、とても大切な事業だと思いますので、継続して取り組んでほしいと思います。

藤井委員長

続いて、事業コード 528 ふじさわ宿交流館の運営事業について、ご質問がなければ講評をお願いいたします。

渡邊（泰）委員 事業コード 528 ふじさわ宿交流館の運営事業についての講評をいたします。ふじさわ宿交流館の整備など、本事業で行われている活動は「歴史の継承と文化の創造」という施策の柱に貢献するものと考えられます。人が集まる場所としての交流館の役割は、現時点で一定程度達成されていると考えられ、今後は集まってきた人々に対し、歴史や文化に対して関心を高める入り口となることを期待したいと思います。

伴委員 地域団体と連携した交流館ワークショップ事業を行う等、地域に根差した交流館としての機能が充実してきていることはとても良いことだと思います。また、市内小学校の交流館の利用にあたり準備をしたことは、施策の柱にある「歴史の継承と文化の創造」に大きく寄与していると思います。子どもたちの自習室としてスペースを開放し、子どもたちの学びの場の提供や学びの機会を作っていることも素晴らしい取組だと考えます。今後も交流館ならではの雰囲気を活かした、地域の活性化と賑わいの創出につなげるための連携を進めてほしいと思います。「歴史の継承と文化の創造」という施策の柱は勿論のこと、「郷土文化資産の保全・活用と地域に根ざした文化芸術活動の推進を図ります」という基本方針に対しても大切な事業だと思うので、これからも継続して事業の充実を図ってもらいたいと思います。

渡邊（美）委員 ふじさわ宿交流館の各種イベントが事業内容に掲げる「藤沢宿の歴史・文化・なりわいの紹介」「伝統芸能の発表の場の提供」「地域の活性化のための事業実施」に即したものであり、基本方針「郷土文化資産の保全・活用と地域に根ざした文化芸術活動の推進を図ります」に寄与していると思います。課題にあるように、地域と連携して遊行寺を含め、旧東海道の宿場としての藤沢を地域全体として盛り上げる拠り所として力を発揮していただきたいと思います。

藤井委員長 本事業は、施策の柱である「歴史の継承と文化の創造」を進めていると思います。報告から、「ふじさわ宿交流館」は地域の交流の拠点としての役割を担い、各種イベントや資料の展示を通して地域の活性化に繋がるような取組をしていることが分かりました。今後も、町づくりの視点を保ちながら、歴史と交流をつなげるような企画やイベントを通して、地域の活性化を進めてほしいと思います。多様な市民が集うことのできる場所であり、多様な方が来訪することのできる場所であってほしいと思います。会議室の利用は、広報の仕方にも課題があるのではないだろうか、と思いました。

藤井委員長 続けて、事業コード 622 スポーツ施設整備事業について、ご質問がなければ講評をお願いいたします。

渡邊（泰）委員 事業コード 622 スポーツ施設整備事業についての講評をいたします。各スポーツ施設の老朽化対策、安全確保と利便性の向上を図るための改修工事など、本事業は「スポーツ環境の充実」という施策の柱に貢献していると考えられます。指定管理している既存施設のバリアフリー化についてはほぼ完了しているということで、今後の改修などの際には使い勝手の向上などに勤めてもらいたいと思います。将来的には、年齢・地域の区別なく、多くの人々がスポーツ施設にアクセスできるようにしていただきたいと思います。

伴委員 事業コード 622 スポーツ施設整備事業について、老朽化の進む大規模スポーツ施設の整備は、安心・安全なスポーツ環境を提供するために大切な事業であると

考えます。オリンピック・パラリンピックの開催、健康寿命等、スポーツに対する関心が高まっているこの機会を捉え、施策の柱にあるように「スポーツ環境の充実」に対してこの事業の推進を望みます。これからも多くの子どもたちが、多様なスポーツに触れる機会をぜひとも作っていただき、スポーツを楽しむきっかけを作っていただきたいと思います。「スポーツ環境の充実」という施策の柱は勿論のこと、「健康で豊かなスポーツライフの環境整備を行います」という基本方針に対しても大切な事業だと思うので、これからも継続して事業の充実を図っていただきたいと思います。

渡邊（美）委員 事業コード 622 スポーツ施設整備事業について、市内スポーツ施設は市内全域にあり、ある程度充実したものと思われまます。その各施設を維持する取組は基本方針「健康で豊かなスポーツライフの環境整備を行います」に即したものであると思ひます。課題として掲げる通り、既存施設を計画的に先送りすることなく整備し続けることは新たに施設を作ると等しく大切な事業だと思ひます。そして、不足している野球場・球技場の早期確保を期待するとともに、例えば健康器具のある公園やダンススペースやボルダリングなど、今日的なニーズにも目を向けた取組を検討していただけたらと思ひます。

藤井委員長 事業コード 622 スポーツ施設整備事業について、本事業は、施策の柱である「スポーツ環境の充実」を進めていると思ひます。報告から、学校開放の一環として、放課後のグラウンド利用（ナイター施設の利用）が保守点検期間を除いた期間において利用されていることが分かりました。グラウンド利用は、19 時から 21 時までの時間帯で、シルバー人材センターの方の協力を得て管理をしていることも分かりました。市民が多様なスポーツライフを過ごすことができるように、スポーツの多様化や新しいスポーツにも対応するような方向で課題を抽出し、更に取り組んでほしいと思ひます。

藤井委員長 続いて、事業コード 821 学校施設改築・大規模改修事業（老朽化解消）について、ご質問がなければ講評をお願いいたします。

渡邊（泰）委員 事業コード 821 学校施設改築・大規模改修事業（老朽化解消）について講評いたします。老朽化の著しい鵜南小学校の建て替えにおいては、津波の避難場所を常に確保し続けるための工法を採用するなど、本事業は「命を守る教育環境の整備」という施策の柱に貢献していると考えられます。老朽化対策、施設の複合化、避難場所の確保、などの複数の制約が重なったため、非常に難しい案件となったかとは思ひますが、今後も計画に沿って進行することを期待しています。一方で、長期間の工事となりますので、児童の学校生活や安全面については十分な配慮をお願いしたいと考えています。また、今回のような特殊な事例について、問題点などがあれば速やかに共有されることを期待します。

伴委員 事業コード 821 学校施設改築・大規模改修事業（老朽化解消）について、子どもたちにとって安心して教育を受けられる環境の整備は急務であると考えます。莫大な予算を必要とする中、複合的な施設を検討し、効果的な整備設計を進めていることは、施策の柱である「命を守る教育環境の整備」に寄与する重要な事業であると思ひます。また、実際に建設を行っている現場では、子どもたちの安全を最優先とし現場のサポート体制をしっかりと考えていることは素晴らしいと思ひます。「命を守る教育環境の整備」という施策の柱は勿論のこと、「命を守る『教

育の推進』『教育環境の整備』『コミュニティづくりの推進』を図ります」という基本方針に対しても大切な事業だと思うので、これからも継続して事業の充実を図ってみたいと思います。

渡邊（美）委員 学校施設の老朽化の解消は安全で良質な教育環境を確保するためには必要な事業であるので、基本方針「命を守る『教育の推進』『教育環境の整備』『コミュニティづくりの推進』を図ります」に寄与していると思います。実施事業として位置付けられた2校の確実な事業執行は課題とするのは当然のこととして、先送りされた4校はことに過大規模であることもあり、なお一層十分に検討されることを期待します。

藤井委員長 事業コード821 学校施設改築・大規模改修事業（老朽化解消）について、本事業は、施策の柱である「命を守る教育環境の整備」を進めていると思います。報告から、学校施設の老朽化改善は施設縮減を進める公共施設再整備プランの中で実施され、鶴南小学校は小学校・保育園・児童クラブの複合化施設へと準備が進められていることが分かりました。また、地理的な視点から、完成までには5年程度要することや不特定多数が利用するような施設の複合化は計画にないことも分かりました。市の公共施設の一つとしての学校は、子どもたちの学校生活の過ごし方に大きく関わることですので、今後も可能な限り着実に進めてほしいと思います。

藤井委員長 それぞれ、委員よりの講評をいただきました。ありがとうございました。

それでは、議題2「2018年度 藤沢市教育振興基本計画の進行管理」に移ります。（1）実施事業について、各委員よりご意見を伺いたいと思います。

渡邊（泰）委員 実施事業についての意見を述べたいと思います。

進行管理についての質疑応答を通し、多くの事業で目標を達成できるよう担当の方々が努力していることがわかりました。この点につきまして、関係者のみなさまに深く敬意を表したいと思います。ありがとうございました。いくつか、質疑の中で気になった以下の事業について意見を述べたいと思います。

事業コード154 「教育指導事務関連事業」について、大学生を見ていても、数学については中学校範囲の事項が身につけていない学生が多数おります。その点から考えると、中学校で補習を必要としている生徒の率はかなり高いのではないかと推測しています。したがって、埋もれてしまっている生徒をどのように見つけていくか、補修へ来るように声掛けをしたにも関わらず、出席しないといった、モチベーションの低い生徒をどのように補習へ巻き込んでいくかなどの仕掛けが必要ではないかと考えました。

事業コード335 「学校施設緑化推進事業」について子どもたちに土のグラウンドだけではなく、芝生の感触も知ってもらいたいと考えると非常に残念なことですが、芝生の養生などの維持管理のコストを考えると縮小もやむなしと考えました。一方で近隣住民を含めてのボランティア活動などを活用した形での維持が可能になるようであれば、そのような取組を後押しするような制度もほしいところです。

伴委員 実施事業について、藤沢市教育振興基本計画では、「未来を拓く『学びの環』ふじさわ」を基本理念に掲げ、様々な事業を実施しています。子どもたちだけでなく、広く多世代にわたる学びを捉え、教育に関する理念と共に、昨今の教育課題

にも対応する柔軟性をもち、幅のある魅力的な学びの機会の実現に向けてこれからも真摯に取り組んでいただきたいと思います。質疑応答を通して、実際の事業担当課が、自己評価において「おおむね達成した」のB評価が多いことも、真剣に取り組んで下さっている表れであり、納得のいくものだと思います。

244「奨学金給付事業」について、広く周知をすることにより、情報を知る機会を増やすよう更なる努力をしていただきたいと思います。実際に給付を受けている学生のフォローとともに、今後給付を希望する学生に、奨学金をどのように利用でき、どのように学生生活を送れているか等、具体的なイメージが持てるように情報提供ができるとよいと思います。今後も、子どもたちの未来に可能性を与えるこの事業を安定して行っていくようお願いいたします。また、必要な人に届くよう、給付者の選定についても十分な審議をお願いいたします。

146「いじめ暴力防止対策事業」について、「いじめ相談ホットライン」や「いじめ相談メール」の活用により、面談とは異なる方法で思いを発信するツールがあることは保護者にとっても、児童生徒にとっても良いことだと思います。実際の活用数に関しては多くはないとのことでしたが、声をあげにくい方々のため、より多くのいじめを発見するきっかけづくりとして続けていただきたいと思います。様々な媒体を用い、周知の機会を捉えより多くの方々に知っていただきたいと思います。また、「いじめ防止プログラム」や「stop いじめ！中学生の集いinふじさわ」のように児童生徒と向き合っていじめについて考えていく機会も重要であると考えます。真剣に考え、向き合い、他人のことを思いやることのできる教育をこれからもお願いいたします。

渡邊（美）委員 実施事業について意見を述べたいと思います。進行状況報告書では読み取れない部分をお聞きすることができ、確実な方向に向け様々に工夫しながら努めておられることがよくわかりました。別の事業がそれぞれに補い、関わり合いながら進められている様子を更に知りたくもなりました。いろいろな背景を持った子どもたちが、自分らしく学べる環境を整えるということは、背景は様々なので、事業としては目標を定めにくいとも思われます。

142「児童生徒指導関係事業」について、子どもたちにとっても、現場の先生方にとっても必要な存在である児童支援担当教諭が小学校全校に配置され、その成果として目が行き届くようになり細かく対応ができるようになったとのこと、素晴らしいと思いました。今後担当教諭の負担が大きくなったり、人材の確保が難しくなったりすることを心配するところです。不登校や不登校傾向、いじめ問題などの対応は教職員がしっかりと子どもに向き合う体制であることが必要だと思うので、市をあげての支援体制が必要だと思います。

621「子どもの体力向上対策事業」については体力・運動能力テストの実施校数が目標となっていますが、最終的に目指すべきところはいかに体力を向上させるかであろうかと思っています。体力テストの結果をもとに検討された子どもの体力向上のための方策をもっと具体的に伺いたいと思いました。市全体として、子どもたちが休み時間にでも体を動かす仕掛けづくりをするなど、体を動かすことを楽しみながら体力ある子どもたちになってほしいと思いました。

藤井委員長 進行管理に関する質疑応答を通して、それぞれの事業が事業目的にそって多様に取り組まれていることがわかりました。多くの事業は、短期間で成果が見える

ものではなく、毎年少しずつ進めることのできる内容やその都度対応を必要とする内容などもあり、継続が重要なことも感じました。また、報告書やリーフレット作成がいくつかの事業でなされていますが、それらの効果の検証方法は今後検討していく必要があるように思いました。さらに、様々な市の取組が活性化するためには、市民に伝わるような方法を検討することも重要だと感じました。

146 「いじめ暴力防止対策事業」について、いじめ相談ホットラインといじめ相談メールの取組が分かりました。本事業は、いじめや体罰に対する未然防止を図り、安全な学校生活を送ることを事業目的としているため、これらの取組はとても大切だと思います。それぞれの件数が月に1件か2件ということでしたので、子どもたちがより相談しやすい環境づくりを進めてほしいと思います。

142 「児童生徒指導関係事業」について、担任の先生と異なる立場で関わることのできる児童支援担当教員はとても大切だと感じました。児童生徒の健全育成の事業目的から見ると、中学校と小学校の連携による児童支援体制の充実や地域との連携など、ますます重要になると共に、課題もあると思います。他市の取組や児童支援担当教員からの声なども反映させながら、更に児童支援体制の充実を進めてほしいと思います。

311 「特別支援教育整備事業」について、児童生徒数の推移から特別支援学級や通級指導教室の設置を検討し、20人を目安としながら、子どもの実態に沿ったあり方を模索しながら進めていることが分かりました。特別な教育的支援には、多様な支援のあり方が含まれると思いますので、保護者や専門家とも相談しながら、児童生徒の特性に応じた教育の場の整備という事業目的を着実に進めてほしいと思います。

藤井委員長 それでは、(2)点検・評価及び進行管理を通じての教育委員会へのアドバイスに移ります。各委員より今回の点検・評価を通して感じたことなどを述べさせていただきます。

渡邊(泰)委員 点検・評価委員会を通じての教育委員へのアドバイスを述べさせていただきます。今年度で2回目となる点検・評価作業ですが、慣れないながらも資料を確認する中で、非常に多くの事業によって藤沢市の教育が支えられているのだということに改めて確認いたしました。これらの事業に日頃から関わっている皆様には改めて感謝の気持ちを表したいと思います。今、関わっている皆様と言いましたが、これらの事業は学校や市の教員・職員だけで成り立っているわけではなく、保護者や地域の人々などのボランティアによっても支えられています。昨今、「働き方改革」というかけ声が先行する中で、現場の教員の忙しさというものにも焦点が当たっておりますが、学校現場の働き方改革を進めるためには、学校や教員が果たす役割を見直すことが急務であると考えられます。そのために、学校が家庭や地域と一層連携し、学校がすべきこと、家庭がすべきこと、地域がすべきこと、についての共通理解を作り上げる必要があるかと思えます。

一方で、こうした取捨選択の議論については、現場のリソースというものが常に一定という制約の下にあり、新しいことを始めたければ別のものをあきらめるという形の議論になりがちですが、教育という次世代の市民を育てる事業の重大性を鑑みれば、どのようにして教育現場に投入できるリソースを増やすことができるかを考えることも、また社会として求められているのではないかと、教育に

関する、人材・物的要素・費用など含め、改めて考える機会となりました。このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝しております。どうもありがとうございました。

伴委員

今年度も点検評価に関わらせていただき、基本理念である「未来を拓く『学びの環』」を軸に、多くの事業に様々な課が関わっていることなど、藤沢の教育について考えていることを改めて知ることができました。児童生徒だけでなく多世代を視野に入れた事業展開や、多様性を許容する事業展開が今後ますます求められるようになっていくと思います。基本理念を軸に3つの目標、基本方針、施策の柱を意識しながらも、柔軟性のある考え方で、藤沢らしい教育についてこれからも考えていただきたいと思います。

よりよい教育環境には、建物の老朽化解消、ICT機器の充実等のハードの面の充実が必須であると考えます。特に、これからの時代を担う児童生徒には義務教育の場で平等にICT機器の活用ができるスキルを身に付ける機会を整備してほしいと強く思います。また、教員の仕事の効率化を推進し、少しでも事務作業を軽減し、児童生徒と向きあう時間の確保、教材研究の時間にあてていただきたいと思います。子どもたちには、安心安全な学校で豊かな心と身体を育てて欲しいです。

あわせて、学校は義務教育であることから当たり前前に教育を受けることができ、藤沢の子どもたちの家庭環境や置かれている様々な状況に気が付くことのできる大切な場所であると思います。子どもたちが未来を創造できるように、教員は信用できる大人であってほしいと願っています。そのために、生活の場である地域と連携し、学校・家庭・地域が支え合い、見守り合える関係を作っていくことが重要だと思っています。お互いにできる範囲で重なり合いながら、できないことや、やってもらえないことに焦点を当てるのではなく、できる人ができることをしていきながら生きていく土壌づくりをしていければよいと考えます。私自身も、PTA活動や、地域活動において、誰もができるときに、できる範囲で関わることでできる雰囲気づくりを心がけ、つながることの大切さを子どもたちに伝えていきたいと思っています。教員の働き方改革などの問題で、なかなか推進することは難しいと思いますが、子どもたちが学校で学力を向上させていく事や、学校でしかできない行事やみんなで協力するといった貴重な経験がたくさんできるように、ぜひ、推進していただきたいと思います。

簡単に連携すると言っても、体制が整うまでとても大変だと思います。藤沢の子どもたちのためにつながる会としても、できる事があれば協力していきたいと思っていますのでぜひ、声掛けをしていただければと思っています。

最後に、藤沢の子どもたちが夢を持ち、未来を創造してわくわくする気持ち、達成感を感じる心、自分と仲間を大切に作る心、地域を思う気持ちを育む学校教育を行い、無条件に受け入れてくれる親以外の大人としての教員の養成を心から願います。このような機会をくださったことに心より感謝申し上げます。

渡邊（美）委員 私は日頃の活動を通じて、地域の若い保護者、保護者OB・OGの方々、そして地域の子どもの支えたいと熱意をもって日頃から活動されている方々とお話をする機会が多いと思うので、そこで出る話題を通して事業を拝見してしまいます。事業を見させていただく中で、様々な制約の中、事業を展開なさる皆さんが、地域

の「気になること」として話題に上がっていたような今日的な課題をも大いに念頭に入れた事業展開を進めていच्छることに感心しました。地域も家庭も学校も、子どもたちのために今何が必要とされていて、何ができるのか。考えていることは一つでありたいと思います。

一方、生涯学習の分野では学習の機会をどのような人たちがどのような方向で求めているのかを探りながら効果的に提供する難しさがあると思います。健康で、前向きに、充実した、人生 100 年時代を迎えるための仕掛けを既成概念にとらわれない形で作っていただけたらと思います。

藤井委員長

今年度で 4 年目になりました。とはいえ、一つ一つの事業内容が詳細に分かるわけではありませんので、質問をしながら確認させていただきました。質問をして初めて、それぞれの事業の取組の形や背景を知ることができます。また、同じ事業でも各委員の異なる関心から質問がなされるため、それに対して詳細な説明がなされることにより、一つの事業でも多様な取組がなされていることも分かりました。そうしたやり取りの中で、新たな質問が浮かんでくるため、点検・評価作業の深さを実感しました。事業内容はどれもとても大切であり、子どもや市民の生活環境に大きく関わるため、一つ一つしっかりと進め、検証することが大切だと思いました。その際、これまでの実績や取組をどのように検証するのか、という視点と、新しい課題にどのように対応するのか、という視点が重要だと感じました。また、広報の仕方においても、これまでの紙を中心とする方法と別の方法の検証の際には、どのような内容に関する広報であったのか、対象者の特性など、広報の方法の検討だけではなく、内容との関わりからも検証することが必要になるように思いました。更に、地域の活性化や子どもの学びの充実した環境整備には、ボランティアや多様な世代による関わりなど、人の交流が鍵になるように思います。ボランティア育成や交流活動の企画などは難しいこともあると思いますが、市民の声を取り入れながら参加型の環境整備も進めてほしいと思います。

各事業には、つながりのあるものや重なりのあるものもあり、事業ごとの連携という横のつながりも大切だと感じました。その横のつながりから新たな形が見てくることもあるように思います。

これからも、多様性が実現された社会に向けて、一人ひとりの市民と子どもが、参加し自由に学ぶことのできるような環境整備を進めてほしいと思います。

藤井委員長

これで議事を終了したいと思います。ここで評価委員会を振り返り、挨拶をさせていただきます。

評価委員会では、さまざまな委員からの質問に対しとても丁寧で詳細な説明と報告をしていただき、ありがとうございました。そうした報告を通して、事業の特性や取組を知ることができました。

意見のやり取りを通して、感じたことは、今後どのようにこれらを継承して発展させていくか、という視点も重要なのではないかと思います。例えば、次世代育成の観点から見ると、この事業はどのように発展すべきなのか、というように考えられるでしょうし、また、新しい現代社会に対応した課題、新しい生活のスタイルに対応した課題などもあるかと思いますので、新しい課題に対してどのように対応していくのが今後、重要ではないかと思います。

そうした、次世代育成、未来の社会に向けた視点と、新たな課題への対応、こ

れまでの取組の検証という視点の中で、また、新しい取組や事業なども出てくる
と思います。その際には事業ごとのつながりというところが重要になってくるの
ではないかと思っています。これからの取組の中でそれぞれの目的を再確認しな
がら進めていって欲しいと感じました。本当にありがとうございました。

藤井委員長 その他、事務局から連絡事項がありますか。

事務局（繁里） 今後でございますが、今回、評価をしていただいた内容につきましては、「藤沢
市教育委員会の点検・評価に関する報告書」として作成いたします。その際に、
点検・評価対象事業となりました事業担当課におきましては、このたび評価委員
の皆さまよりいただいたご意見を踏まえた今後の方向性について別途報告を依頼
しますので、ご協力をお願い致します。また、評価委員の皆さまには個別に連絡
を差し上げ、内容の確認をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

藤井委員長 それでは、以上をもちまして、藤沢市教育振興基本計画評価委員会を終了いた
します。ありがとうございました。進行を事務局にお戻しいたします。

事務局（繁里） ありがとうございました。

それではここで、教育次長から、一言ご挨拶させていただきます。

須田教育次長 委員の皆様には、猛暑の折、また平日の大変お忙しい時間帯に、3回の会議に
ご出席いただきまして、ありがとうございました。また、それぞれのお立場から、
本市の教育振興基本計画の進行管理および教育委員会の点検・評価につきまして、
熱心にご質問、ご意見をいただき、感謝申し上げます。さらに、今年度は、第3
期藤沢市教育振興基本計画の策定委員として、次期本計画案作成についても、多
大なるご尽力をいただき、重ねて感謝申し上げます。「未来を拓く『学びの環』ふ
じさわ」を基本理念に掲げて推進している藤沢市教育振興基本計画ですが、この
たびの点検評価を通して、委員の皆様からいただいた貴重なご意見を実施事業の
中で生かしながら、「学びを通して人と地域がつながる生涯学習社会、ふじさわ」
を目指してまいりたいと思います。今後とも、委員の皆様には、本市の教育行政
を見守っていただき、いろいろな場で、ご指導やアドバイスをいただきたいと思
っております。

大変簡単ではありますが、御礼のあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

事務局（繁里） ありがとうございました。これをもちまして、会議を終了させていただきます。

以 上